

医薬品有害反応を未然に防ぐために 薬剤師としてどうすべきか？

～スモールグループディスカッションによる症例検討会～

ワークショップの意義

「目の前の症例に対して有効かつ安全な最高の薬物療法を責任をもって提供する」のが薬剤師の務めです。小グループに分かれ、実際の症例に基づいてグループワークを行う実践的なワークショップに参加してみませんか？病態生理と薬物療法に関する基本的な解説も行います。

情報の収集能力、検索能力を高めるために PC や iPad、スマホ、医薬品集などの持込みを歓迎します。

例えばあなたは以下のような症例に対して薬剤師としてどのように考え、どのような行動をしますか？**初心者・動態や病態がよくわからない人こそ参加してください。**

- ① 腎機能の低下した高齢者に NSAID が 30 日分投与された。
- ② 血清 Cr 値 0.3mg/dL の長期臥床高齢者が MRSA 院内感染に。
腎機能の把握に eGFR を使う？バンコマイシンの投与設計は？
- ③ 相互作用によるテオフィリン中毒死。薬剤師として防げるか？

症例を提示します



病態を把握し問題点を絞り込み、薬物療法について話し合しましょう（ディスカッション）



最適な薬物療法を考えましょう（提案）



病態・薬物の理解を深めましょう（解説）



先着 80 名（ディスカッション希望者 40 名、聴講希望者 20 名）

企画担当：熊本大学薬学部臨床薬理学分野・平田純生 hirata@kumamoto-u.ac.jp
くまもと温石病院・森 直樹 drug@onjaku.jp